

日本も財政支援へ

ザイール 人的貢献も検討 多国籍軍

大量の難民が出ているザイール東部への人道援助支援を目的とする多国籍軍の派遣について、政府は十四日、多国籍軍に財政支援を行方方向で検討を始めた。

派遣準備を主導しているカナダ政府からの支援要請に基づくもので、正式に派遣が決まりしだい、額や拠出の方法を詰める方針だ。

ザイールへの多国籍軍は、国連安保理が派遣準備を決議、国連のカリ事務総

長は数日中に正式に派遣が決議されることに期待を表明している。参加国はカナダをはじめイタリヤなど十二カ国以上になる見通し。

(9面に関係記事)

ただ、財政面では安保理が「派遣費用は目前で」と催告しているのに対し、アフリカ諸国などの中には金額負担が難しい国が出るとみられている。このため、カナダ政府が日本政府に対し、アフリカ諸国への費用

補てんを中心とする財政支援を求めてきていることが同日、明らかになった。

梶山静六官房長官は同日の記者会見などで、「(一)九九四年のルワンダ難民救

援のための自衛隊派遣の時

とは)状況が違ふ」と述べ、PKO協力法に基づく人員の派遣は困難との見通しを示す一方、財政支援については「この地域における人道的な活動にはこれまでも貢献してきている。そのようなことができるか、検討を始めている」と前向きな姿勢を示した。

また、この問題に関連し

て、外務省首脳は同日、

「財政面だけでなく、顔の見える貢献をしたい」と述べ、難民の帰還が始まった際の物資や人的支援を検討する考えを示した。

13カ国と多国籍医師団

AMDA
ルワンダ救援

内戦によるアフリカ・ルワンダ難民の救援活動をしている非政府組織(NGO)のAMDA(アジア医師連

結協議会・本部・岡山市)は十五日、東京都内で記者会見し、アフリカの十三カ国と合同で「AMDAアフリカ多国籍医師団」を結成する、と発

表した。AMDAは来週初めに緊急救援チームを派遣して救援態勢を整え、各国の医師の受け入れに備えるという。AMDAが仲介する形で、アフリカ諸国がルワンダ難民への救援活動に参加するのは初めてという。事務局は「アフリカの近隣諸国が救援活動をすることで、各国の自立につながるのでは」と言っている。